公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターみゆき				
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 19日 ~ 令和7年 1月 17日			令和7年 1月 17日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41人	(回答者数)	41人	
○従業者評価実施期間	令和	16年 12月 19日	~	令和6年 12月 27日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20人	(回答者数)	20人	
○事業者向け自己評価表作成日	令和	16年 12月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個々に合わせた支援を考え、個別支援計画に沿って支援を実施している。食事、排泄、着脱等の基本的生活スキルの獲得向上に向けた個別プログラムだけでなく、クラスやグループでの集団療育の実施も行っている。	・児童発達支援管理責任者とクラス担任や臨床心理士、看護師等の意見を踏まえ支援計画を作成している。 ・毎月クラス会議、クラス別ケース会議を実施することで子どもの様子や状況の確認を行い、支援方法の見直しに繋げている。 ・クラス別活動の他、グループ別活動を実施し、目的に合わせた活動ができるようにしている。	・引続き他職種と連携を図りながら個に合わせた支援を考え、対応できるようにしていく。 ・現在実施しているグループ別活動だけでなく、様々な活動によりグループを分け活動できる機会を増やしていく。
2	・年間を通じて様々な行事の体験ができる。(運動会や発表会、フェスタ等の実施) ・地域との連携の場も多く、年間を通してのボランティアが参加しての散歩や、地域のコミュニティーまつりへの展示等を実施している。	・地域のボランティア会議への参加をし、情報共有や交流を 図っている。 ・ボランティア講座への参加をし、新規ボランティアの開拓を 継続的に実施している。 ・卒園児保護者との繋がりを大切にし気軽に来園してもらえる 関係作りをしている。	会議に出席予定。今後も地域との連携を図っていく。
3	庭等が使いやすく配置されており、活動場所が確保されてい	・各クラスの活動場所が重複しないよう、活動場所について毎週末に確認をしている。 ・安全に歩くことができるルートの確認や新規コースの開拓をし、楽しみながら体力、歩行力の向上に繋げている。	・園内研修や様々な外部研修に参加することで、各活動がマ

		事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1		・ST、OT、PTの常駐がない。		・より良いセンターとなれるよう引き続き働きかけていく。 ・専門職の確保は難しい現状だが、各種相談会や保護者学習会等が年間を通じて計画されており、保護者が様々な専門職からの相談や学ぶ場の確保をし補っている。 ・相談会後、連携している医療機関の専門医に職員研修会を依頼しており、専門職のアドバイスを受けることができる体制を整えている。
	2	・きょうだい向けのイベントがない。	・コロナ以前はきょうだいや卒園児等も参加したイベントを実施していたが、コロナ禍の中での人数制限等の理由により中止していた。	